

令和2年3月31日

聖徳大学幼児教育専門学校  
校長 川 並 順 殿

学校評価委員会  
委員長 北 條 泰 雅

学校評価委員会報告（案）

令和元年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校評価委員

- ① 北條 泰雅（東京都私立幼稚園連合会 港地区会地区長）
- ② 五島 満（学校法人慈光学園 理事長）
- ③ 中山 伸（社会福祉法人島田福社会 理事）

2 学校評価委員会の開催状況

- 第1回委員会 令和元年11月19日（聖徳大学幼児教育専門学校 301教室）
- 第2回委員会 令和2年3月（持ち回り議決）

3 学校評価委員会報告

別紙のとおり

以 上

## 各評価項目について

### 1 教育理念

[意見]

ホームページは率直に言って整いすぎていると思う。アクセスしやすくすることだけでなく、本校が理念に元づいて目指そうとしている教育像、目的等を大胆に売り出しても良いのではないかと考える。

改善方策の中の「即戦力」ですが、昔より保育が難しくなっているため、同時に、「持続力と向上力（心）」にも触れていただけるとありがたい。

[評価]

学校評価委員平均評定 3.83（学校自己評価評定 4.00）

### 2 学校運営

[意見]

「社会の急速な変化・時代や社会の変化」について、どういう変化が起こっていると認識していて、それをどう捉えていかも明確にしてほしい。

[評価]

学校評価委員平均評定 3.95（学校自己評価評定 4.00）

### 3 教育活動

[意見]

全体として「シラバス」は充実してきている。

「学習シート」を活用して、学生の意欲をどうやって掻き立てていくかで工夫されている。学生に本来つけてもらいたいと思っている力のまだ足りない部分が、個々の問題なのか、共通して持っているのかの分析してほしい。

チームやグループでの活動時、困ったと言えないなど、個々の資質なのか、全体的な傾向なのか分析し、対応を検討していただきたい。

[評価]

学校評価委員平均評定 3.85（学校自己評価評定 3.77）

#### 4 学修成果

[意見]

就職率 100%は特に素晴らしい成果である。(幼稚園 2 種から) もうひとつ上の免許をとろうとしている卒業生に対して、フォローアップで独自の取り組みをしてあげられると良いのではないか。

保育現場が複雑になり、園の経営も多様化している中、何が必要かを知るために卒業生からの話を聞く機会等は大切である。

卒業生への「長期の終業就業継続が可能な進路決定を実現する支援」はありがたく是非、強化していただきたい。

[評価]

学校評価委員平均評定 3.78 (学校自己評価評定 3.67)

#### 5 学生支援

[意見]

グループ研究発表会は、自らの学ぶ力をつけるために積極的な意味があると思う。「長期の就業継続が可能な進路の決定を実現する支援」は大切で、是非強化してほしい。

卒業後の支援として上級免許等への対応も検討して欲しい。

[評価]

学校評価委員平均評定 3.25 (学校自己評価評定 3.00)

#### 6 教育環境

[意見]

特になし

[評価]

学校評価委員平均評定 3.92 (学校自己評価評定 4.00)

#### 7 学生の募集と受入れ

[意見]

学生充足率はどこの学校も厳しいが、御校の良さをもっと PR し、理解してもらえる生徒に多く来てもらえると良い。

高等学校、保護者との連携を強化し、「よりよい関係」を作り募集に当たっていただきたい。

学校の特色を生かし、幼児教育の世界の職場体験的も数多く実施してほしい。例えば中学生の頃からそういう現場、世界を知ることとは将来大変意味のある事である。

[評価]

学校評価委員平均評定 4.00 (学校自己評価評定 4.00)

## 8 財 務

[意見]

教育目標達成のためにも学生を増やして行ってほしい。

納付金等を改訂せず、厳しい状況の中で財務運営をしていることは評価される。また学園としてしっかり公表しているのが確認できる。

[評価]

学校評価委員平均評定 3.67 (学校自己評価評定 3.50)

## 9 法令等の遵守

[意見]

個人情報関係で SNS 等の使い方には充分注意してもらいたい。

[評価]

学校評価委員平均評定 4.00 (学校自己評価評定 4.00)

## 10 社会貢献・地域貢献

[意見]

留学生ではなくとも、保育でいろいろな外国から見学にくることも考えられる。幅広い交流の機会等ができるといいのではないか。

地域自体が変化（民家も少なくなったり）して来ているが、御校の特色を生かし、地域に幼児教育の世界を広げて行ってほしい。

[評価]

学校評価委員平均評定 3.33 (学校自己評価評定 3.00)

## 全体を通じて

多々厳しい環境の中、改善を進めていられる。

幼稚園教諭・保育士も一人の人間として、社会人としてどれだけ成長できるかにかかっていると思われる。保護者や保育者間の関係も複雑になっていく時代であるが、そういう中で確たる保育感を貫いていける、愛校心を持った人たちを育てて行ってほしい。